

戸塚 哲夫 議員

市南部地域の主要道路整備は

問 広域的な主要幹線道路などの整備の遅れが、地域の課題となっている。県道磐田掛川線について、これまでの取り組み状況と対応はどうか。

答 平成23年度に測量設計、24年度に物件調査を実施した。本年度は用地補償を進めていく。本路線は交通量が多く、磐田市への通学・通勤の主要な道路であるため、早期整備に向けて県へ要望していきたい。

問 県道中野諸井線について、富里中地内の改良は。

答 富里中公会堂から富里下地区までの区間は、道幅も狭く通学時に危険が伴う状況である。道路構造やルート等の課題を整理し、県道袋井大須賀線外二線整備促進期成同盟会を通じて、早期事業化を強く要望していきたい。



改良工事が望まれる県道磐田掛川線

問 都市計画道路浅名五十岡線の整備状況はどうか。

答 県道袋井大須賀線から支所に至る区間については、浅羽支所やメロープラザへのアクセス向上につながることから整備が必要と考えている。今後は、都市計画道路の再検証の結果や地域の状況などを踏まえながら、事業化に向けて検討を進めていきたい。

大石 重樹 議員

浅羽海岸浸食と養浜に

抜本的対策を

問 サンドパイパス事業は停止したまま9ヶ月経過している。その原因究明と対策は。

答 海藻等の異物吸引により過大負荷を生じ機器が焼き付くため、改良中である。海亀の産卵期を考慮して、9月下旬に総合試運転を再開すると聞いている。

問 太郎助前海岸は台風の度に浸食され、補修を繰り返しており、住民は不安を募らせている。抜本的な対策を。

答 サンドパイパス事業の本格稼働により、年間8万立方メートルの砂が太郎助前の海岸に搬送されることで、抜本的な浸食対策になると考える。早期に本格稼働するよう関係機関に強く働きかけるとともに、稼働後も県とモニタリングを行い対応していきたい。

浅羽支所の存続を望む

問 浅羽支所と周辺施設は市南部の地域振興また防災拠点として重要度が増している。支所存続をどう考えているか。

答 南部地域の住民サービス低下を招かぬことが重要である。支所機能や行政需要等について内部で検討するとともに、地域審議会をはじめ地域住民の意見を伺いながら、支所のあり方を検討していきたい。



浸食された浅羽太郎助前の海岸